

京都ギャップイヤー事業 「留学生アンケートプロジェクト」

プロジェクト期間
2013 年 11 月～2014 年 3 月

～目次～

I 調査の概要	3
II 回答者の属性	4
1.出身国	
2.性別	
3.年齢	
4.現在の所属学年	
III 調査結果	6
1 留学の目的について	
2 日本を留学先として選んだ理由	
3 京都を留学先として選んだ理由	
4 将来について	
(1) 卒業後の進路について	
(2) 日本で就職したいか	
(3) 日本で就職したい理由	
(4) 就職するときに重視するもの	
(5) 留学生にとって必要な支援とは	
5 留学生活について	
(1) 日本にきて何年になるか	
(2) 現在の住まいは？	
(3) 留学生活で困ったことについて	
(4) アルバイトはしているか	
(5) アルバイトをする理由	
(6) 1 か月の平均的収入	
(7) 1 か月の平均的支出	
6 自国について	
(1) 自国の誇れるところ	
(2) 性格について	
7 日本について	
(1) 日本に対するイメージ	
(2) 来日前と来日後の変化	
(3) 情報の入手方法	
(4) 日本人の性格	
(5) 日本人との交流について	
IV 全体の考察	33
V 参加者の感想	34

I 調査の概要

(1) 企画概要

2013 年 11 月から NPO 法人グローバル人材開発センター学生事業部の大学生 3 名が京都に在住する留学生に対し、アンケート・インタビューを行うプロジェクトを企画した。活動のきっかけは参加者である大学生が自身の留学体験を機に日本のことを見つめ直す機会として、また京都府戦略企画課（京都ギャップイヤー事業事務局）から提案をいただき今回の企画実施に至った。

2014 年 2 月には、大学生がアンケートを行った結果を京都府内の高校 3 年生と一緒にデータ分析を行い、この結果をまとめた。

(2) 実施目的

①京都の留学生を増やすための考察を行う

留学生の生活状況を調査し、どのようなところに問題を抱えているのかを明らかにすること。そして、その問題を解決し、京都にもっと留学生を呼び込むためにはどうすればよいかを考えること。

②異文化を理解し、日本のことを見つめ直す

留学生の出身国に対する思いや日本に対する思い、相手国と日本の違いや留学生と日本人の考え方の違いなどを露わにし、相手国の理解や自国の理解に努める。

③高校生に大学生になった際に必要な文章作成、データ分析方法など学ぶ機会の提供
高校生へは大学で必要となるであろう文章作成、基本的な office ソフトの使い方、データ分析方法なども学ぶ機会を提供した。

(3) アンケート調査方法

直接配布・ネット配布（Google ドライブ使用）

(4) 調査期間

2013 年 12 月 19 日～2014 年 2 月 12 日

(5) 回答者（留学生）

同志社大学 25 人 立命館大学 20 人 関西学院大学 3 人 滋賀県立大学、京都情報大学院大学、日本経済大学、立命館アジア太平洋大学、成安造形大学、京都大学、城西国際大学、大阪商業大学、各 1 名

（合計 56 名）

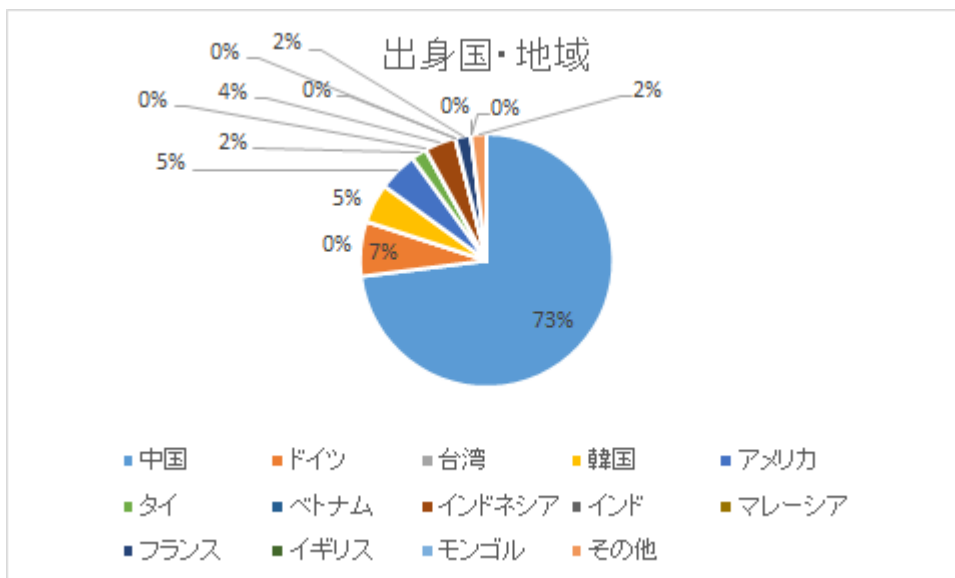
(6) 協力団体

- ・日中学生交流団体 freebird
- ・同志社大学中国人留学生会
- ・チュービンゲン大学（同志社大学内）

Ⅱ 回答者の属性

1. 出身国・地域

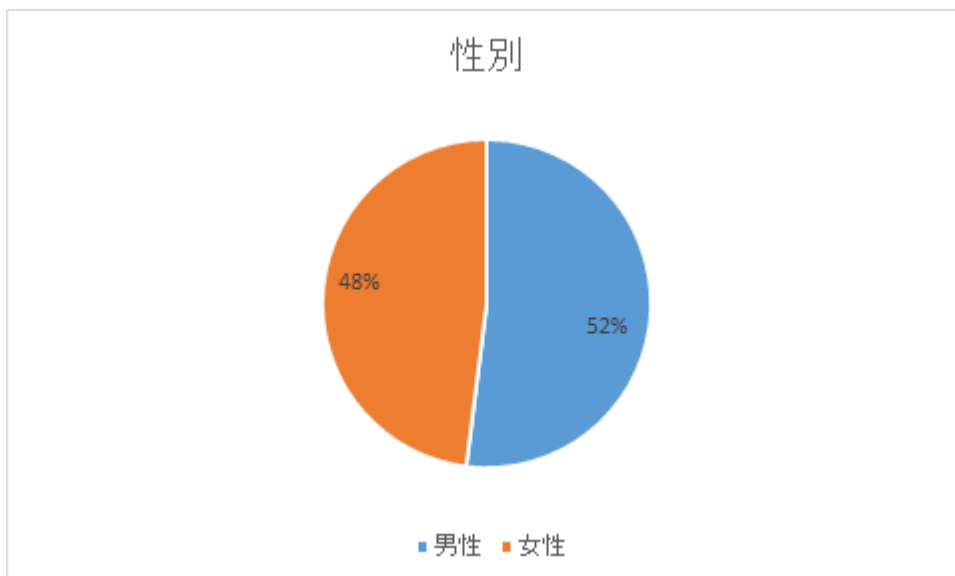
出身国・地域は、「中国」が73%と、約7割を占め、最も多かった。以下「ドイツ」7%、「韓国」「アメリカ」5%、「インドネシア」4%、「タイ」「フランス」2%と続く。



(回答数 57件)

2. 性別

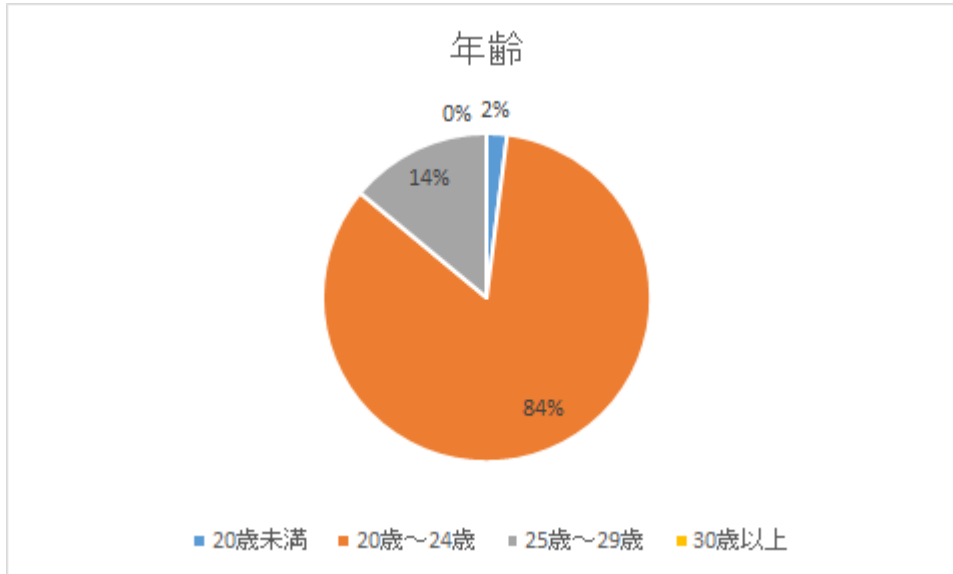
性別構成比は、男性30人で52%、女性27人で48%だった。



(回答数 57件)

3. 年齢

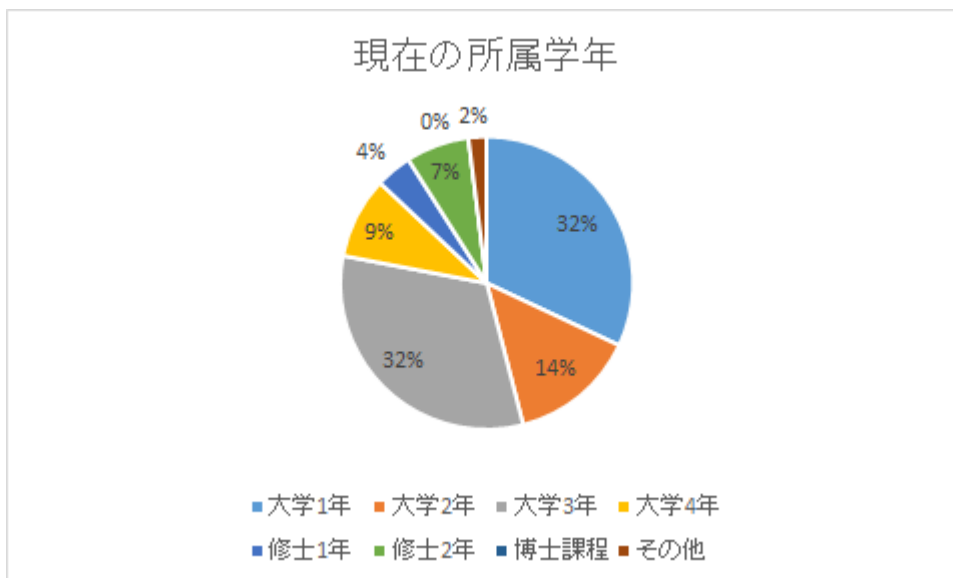
年齢別構成比は、調査対象が大学生であったことから「20～24 歳」が 84%で一番多かった。次に、「25～29 歳」で 14%、「20 歳未満」2%だった。30 歳以上の回答はなかった。



(回答数 57件)

4. 現在の所属学年

現在の所属学年は、「大学1年」と「大学3年」が同数の32%で約6割を占めた。次に「大学2年」14%だった。それに続いて、「大学4年」が9%、「修士2年」が7%、「修士1年」が4%を占めた。



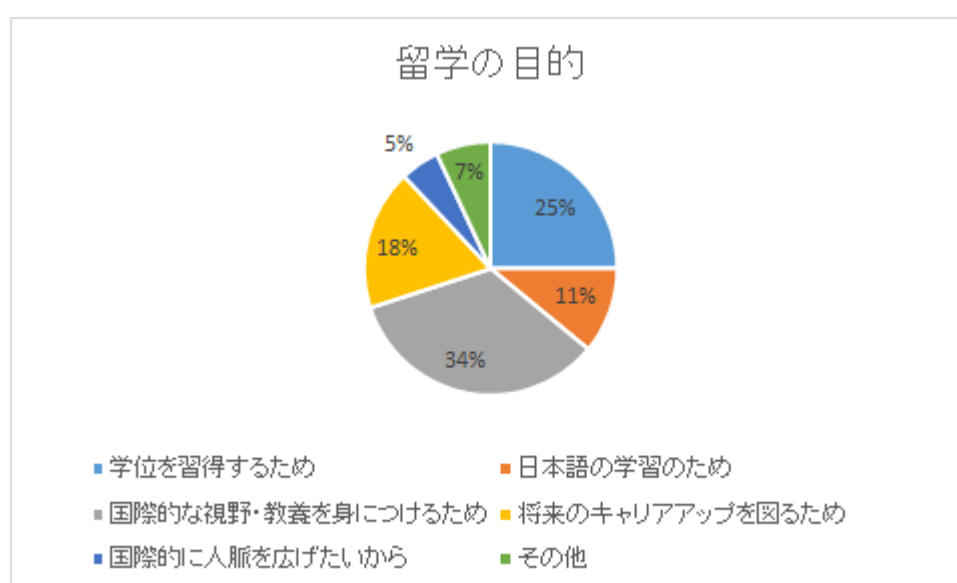
(回答数 57件)

Ⅲ 調査結果

1. 留学の目的について

Q7 あなたの留学の目的は何ですか？あてはまるものを一つ選んでください。

留学の目的として一番回答が多かったのは、「国際的な視野・教養を身につけるため」が 34% を占めた。次に多かったのは、「将来のキャリアアップを図るため」が 18% 占め、三番目に「日本語の学習のため」11% が並んだ。最後に「国際的に人脈を広げたいから」5% という結果になった。



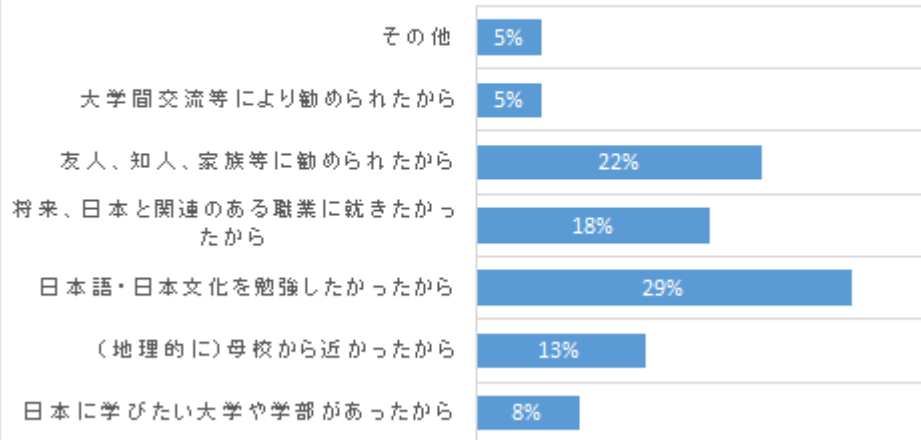
(回答数 57件)

2. 日本を留学先として選んだ理由について

Q8 あなたが、日本を留学先として選んだ理由は何ですか？
あてはまるものを選んでください。(二つまで選択可)

日本を留学先として選んだ理由としては、「日本語・日本文化を勉強したかったから」が一番多く 29% を占めた。二番目と三番目はほぼ同票で、「友人・知人・家族などに勧められたから」22%、「将来日本と関連のある職業に就きたかったから」18% と続いた。以下、「(地理的に) 母国から近かったから」13%、「大学間交流により勧められたから」5% となった。

日本留学の目的



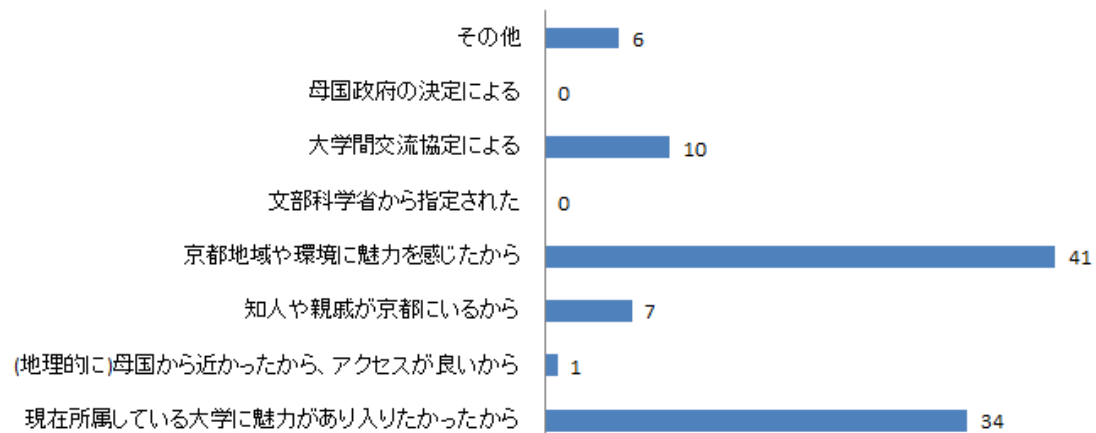
(回答数 78件)

3. 京都を選んだ理由

Q9,あなたが京都を留学先として選んだ理由は何ですか？あてはまるものを選んでください。
(2つまで選択可)

京都を留学先に選んだ理由については、「京都地域や環境に魅力を感じたから」が41%と最も多く、次いで「現在所属している大学に魅力があり入りたかったから」34%、「大学間の交流協定による」10%だった。

京都を留学先に選んだ理由



(回答数 68件)

<質問 1～3 についての考察>

この項目では留学の目的、日本に留学を決めた理由、京都を留学先を選んだ理由を聞いた。その理由は人それぞれだが、特に国際的な人材になり教養を身に着けたいと感じている人が多かった。まずは国際的な人材に育ちたいという思いがあり、そこで日本を選ぶ理由として、日本語や日本文化を学びたいと考える人が多いことから、日本にもともと興味を抱いている人の留学が多いように思える。

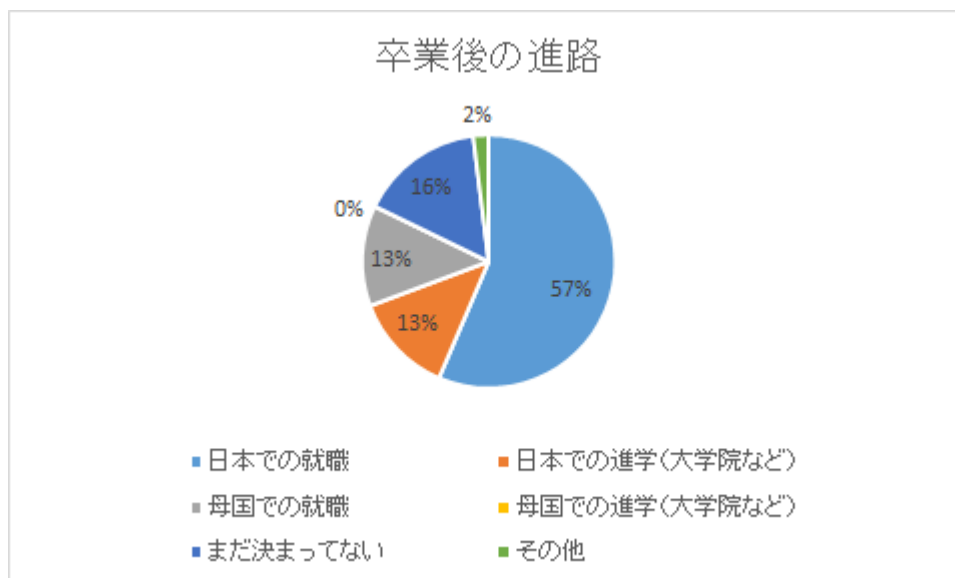
京都を留学先として選んだ理由では、京都地域や環境に魅力を感じた人が多いという回答が目立った。京都府の平成24年度の調査で、京都にいる留学生が6900万人いて、年々増えていることがわかっており、全国において1位を占めていることから、京都に魅力を感じる人が多い結果にも納得がいくであろう。

4 将来について

(1) 卒業後の進路について

Q10,あなたの卒業後の進路希望は次のうちどれですか？あてはまるものを1つ選んでください。

卒業後の進路希望については、「日本での就職」が57%と最も多く、次いで「まだ決まっていない」が16%、「日本での進学」「母国での就職」がともに13%だった。

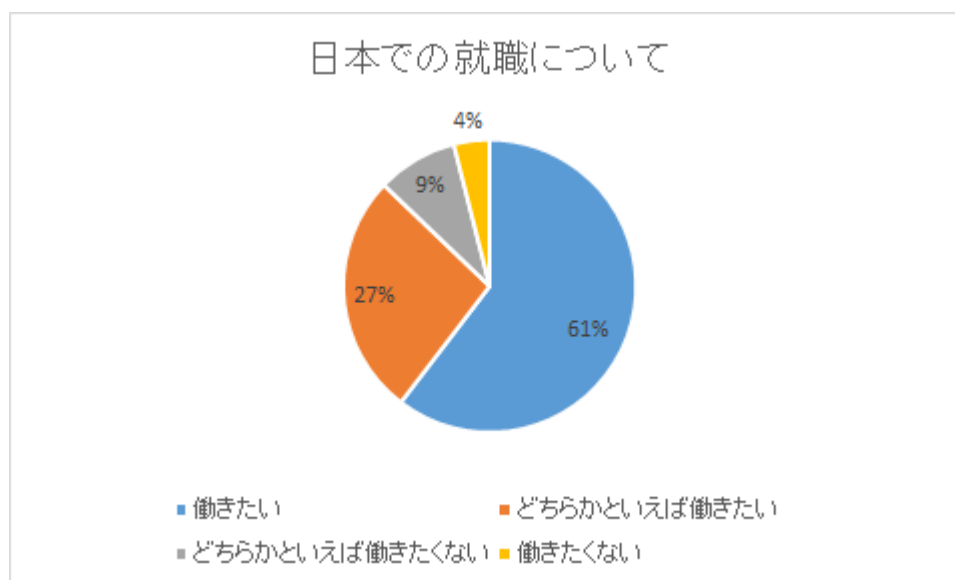


(回答数 57件)

(2) 日本での就職について

Q11,あなたは将来日本で働きたいと思いますか？(1つ選択)

将来日本で働きたいと思うかについて、「働きたい」が61%と最も多く、次いで「どちらかといえば働きたい」が27%、「どちらかといえば働きたくない」が9%、「働きたくない」が4%の順となっている。

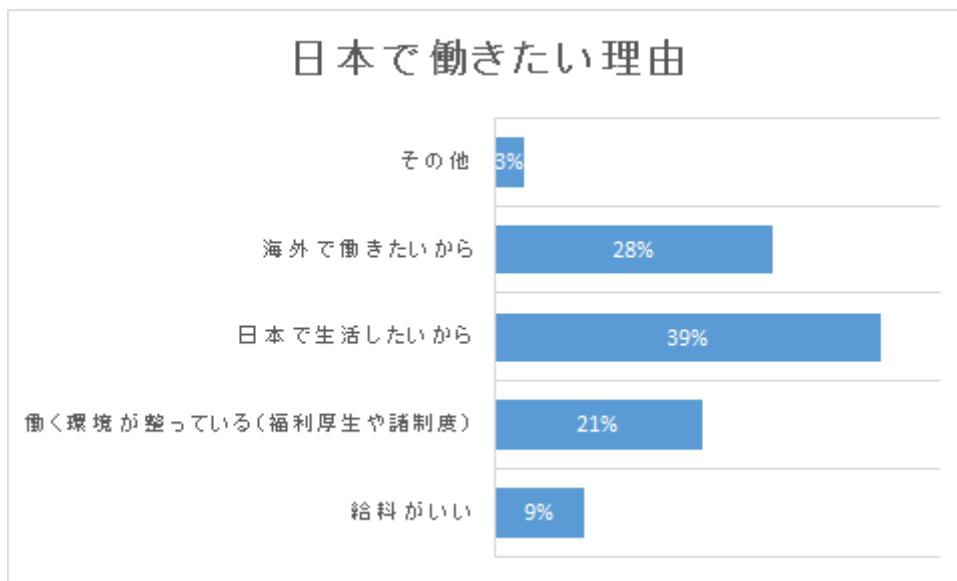


(回答数 57件)

(3) 日本で就職したい理由

Q11-2,どうして日本で就職したいと思いますか？(2つまで選択可能)

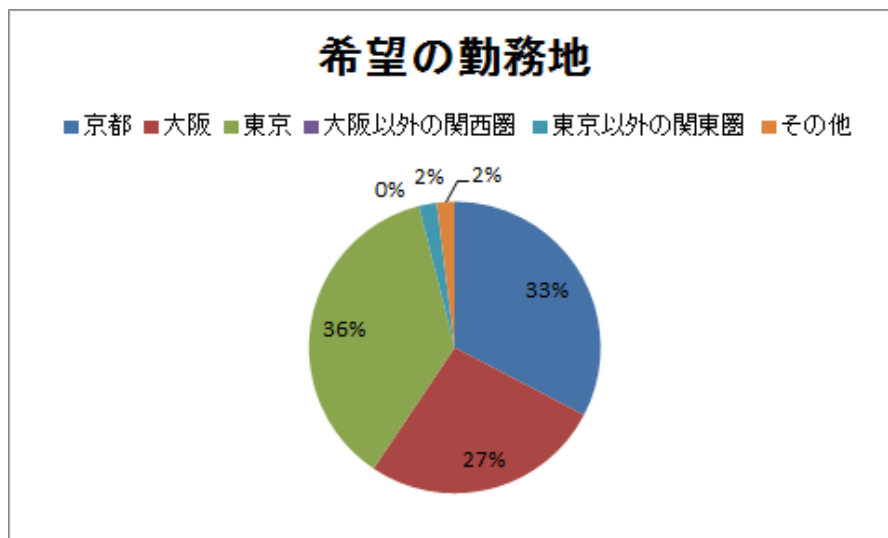
Q11 で「働きたい」または「どちらかといえば働きたい」と答えたひとのうち、最も多かったのは、「日本で生活したいから」という回答が 39%で一番を占めた。次に「海外で働きたいから」というのが、28%を占めた。



(回答数75件)

Q11-3 日本で働く場合、希望の勤務地についてあてはまるものを選んでください。(1つ選択)

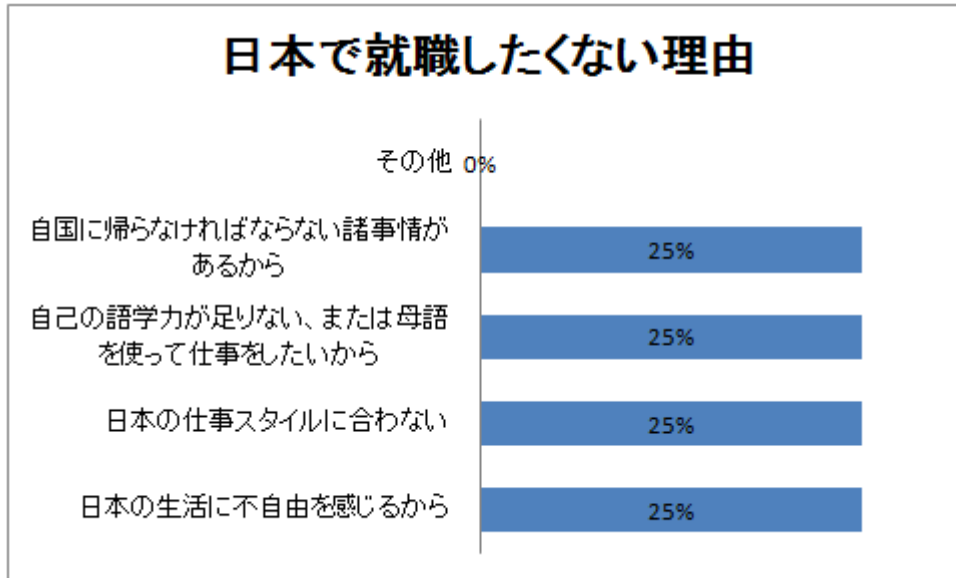
さほど回答に差がなく、東京が36%で京都が33%で、大阪が27%でした。



(回答数50件)

Q11-4 どうして日本で就職をしたくないですか？

回答が全て同数であった。

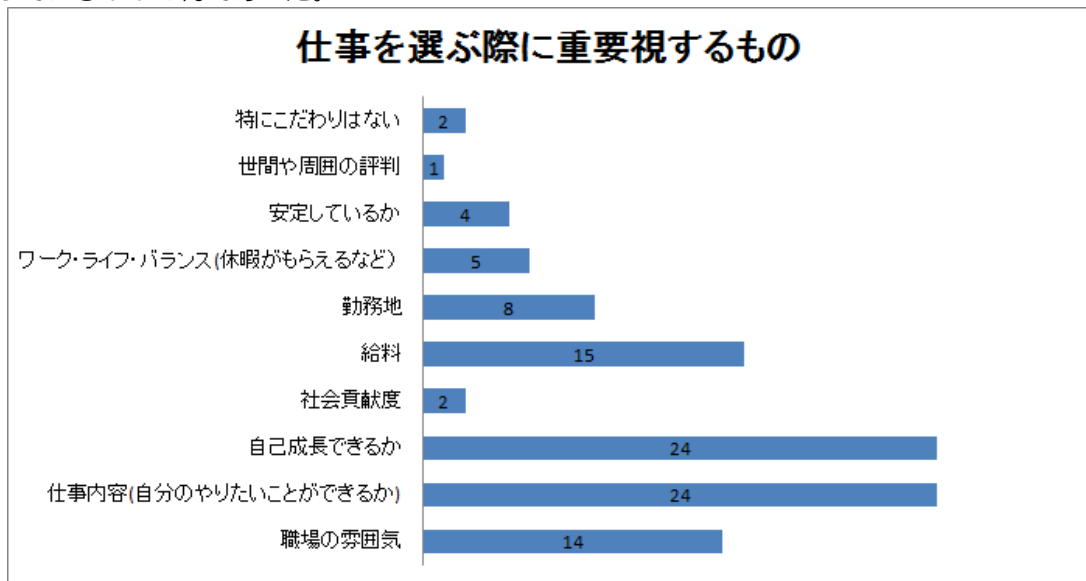


(回答数12件)

(4) 仕事を選ぶ際に重要視する点

Q12、あなたが仕事を選ぶ際に重要視するものは次のうちどれですか？(3つまで選択可)

仕事を選ぶ際に重要視するものとして、仕事の内容が24%、自己成長できるかが24%、給料が15%、職場の雰囲気、勤務地が8%、ワーク・ライフ・バランスが5%、安定しているかが4%であった。

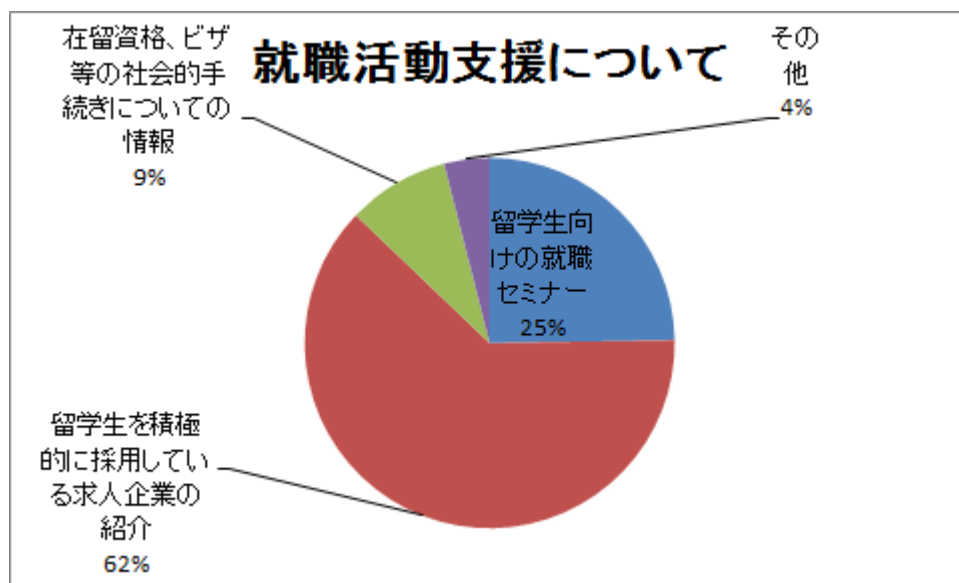


(回答数136件)

(5) 留学生にとって必要な支援

Q13、日本で就職活動をする際、どんな支援が必要だとおもいますか？(1つ選択)

日本での就職活動の際、必要な支援については、留学生を積極的に採用している求人企業の紹介が62%、留学生向けの就職セミナーが25%、在留資格、ビザ等の社会的手続きについての情報が9%であった。



(回答数 57件)

<質問4についての考察>

この項目では、留学生の将来・について質問を行った。

結果は、卒業後の進路希望で、母国より日本での就職を希望する人の方が多いことに驚いた。日本で働きたい理由についても、ただ海外で働くという志向が強いというよりも、日本で生活したいから、という回答が多かったので、多くの人が将来日本で生活していくことに不自由を感じていないのかもしれない。

勤務地においては関西地方で、およそ60%を占めていて、それ以外の回答では東京の回答が目立つことより、関東での就職を望む人と、関西での就職を望む人に分けられる。

やはり海外で働くにしても、仕事をするうえで求めるものは、やはり、自己成長や仕事内容を重視していることが分かった。

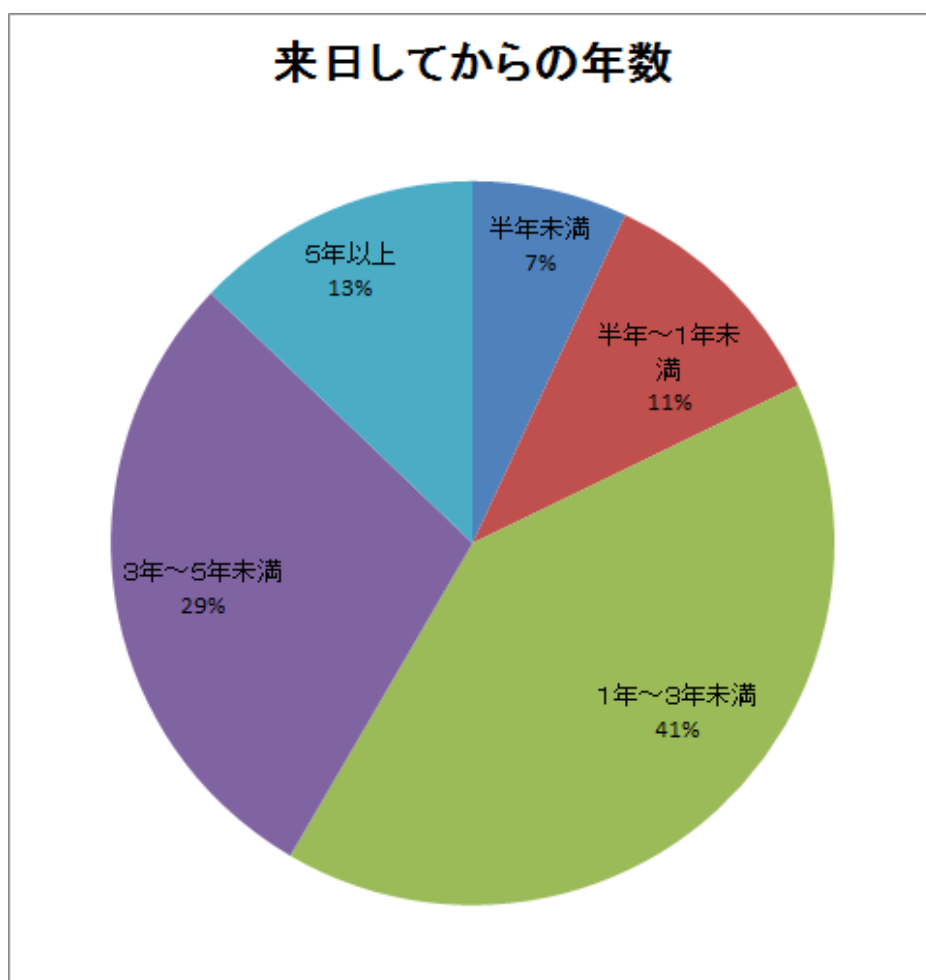
これだけ日本での就職を希望している留学生が多いのだから、求人企業の紹介や、留学生向けの就職セミナーなど、留学生を支援する活動に彼らが十分に満足していないことがわかるので、これからさらに必要になってくるだろう。

5 留学生活について

(1) 日本にきて何年になるか

Q14,あなたは日本に来て何年になりますか？

日本に来て何年になるかについては、「1年～3年未満」が41%と最も多く、次いで「3年～5年未満」が29%、「半年～1年未満」と「5年以上」が11%、「半年未満」が7%の順となっている。

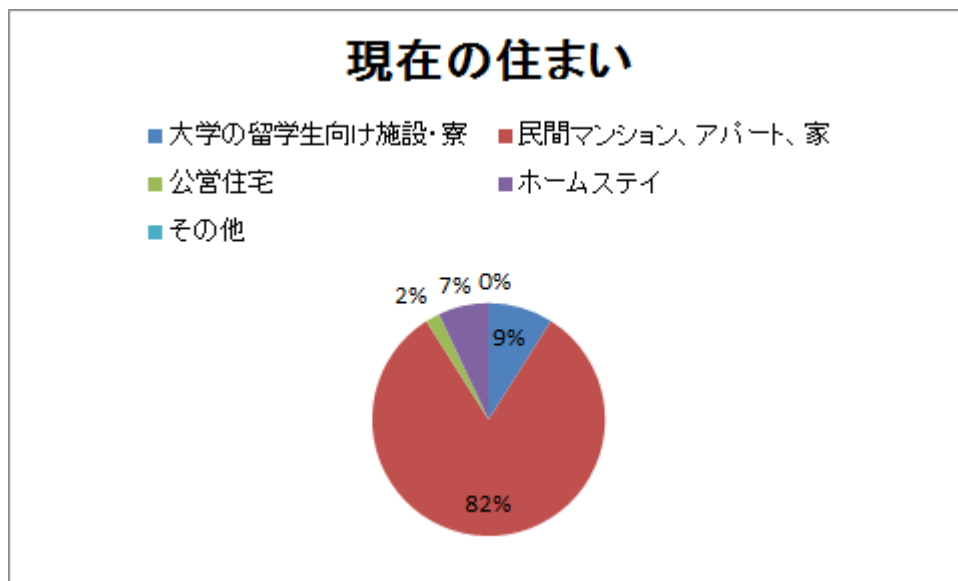


(回答数 57件)

(2) 住まいについて

Q15,現在、どのようなところにお住まいですか？

現住居については、「民間マンション、アパート、家」が82%と突出して最も多くなっている。次いで「大学の留学生向け施設・寮」が9%、「ホームステイ」が7%、「公営住宅」が2%と少ない。

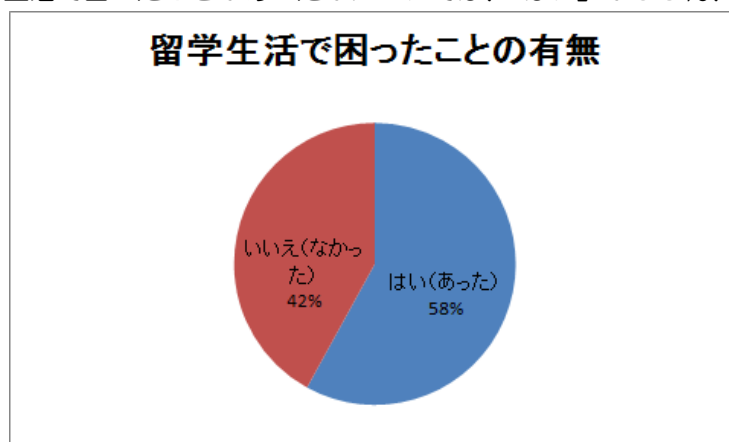


(回答数 57件)

(3) 留学生活で困ったことについて

Q16-1,あなたは留学生活を送るうえで困ったことがありましたか？

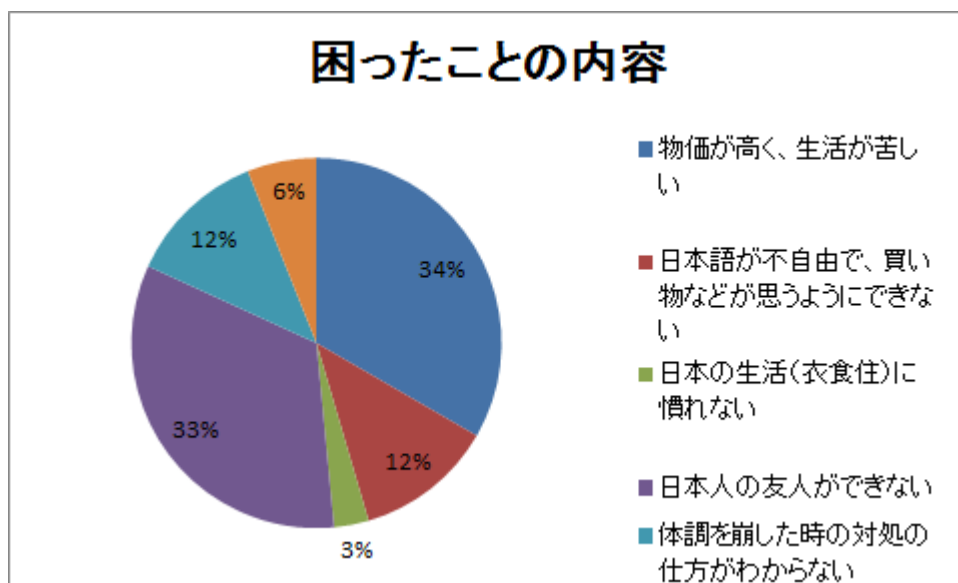
留学生活で困ったことがあったかについては、「はい」が58%、いいえが42%だった。



(回答数 57件)

Q16-2,上記ではい(あった)と答えた方、困ったことは次のうちどれにあてはまりますか？(1つ選択)

上記ではい(あった)と答えた方、困ったことについては、「日本人の友人ができない」が34%、「物価が高く、生活が苦しい」が33%と多く見られ、次いで「日本語が不自由で買い物などが思うようにできない」と「体調を壊した時の対処の仕方がわからない」が12%、「日本の生活(衣食住)に慣れない」が3%の順となっている。

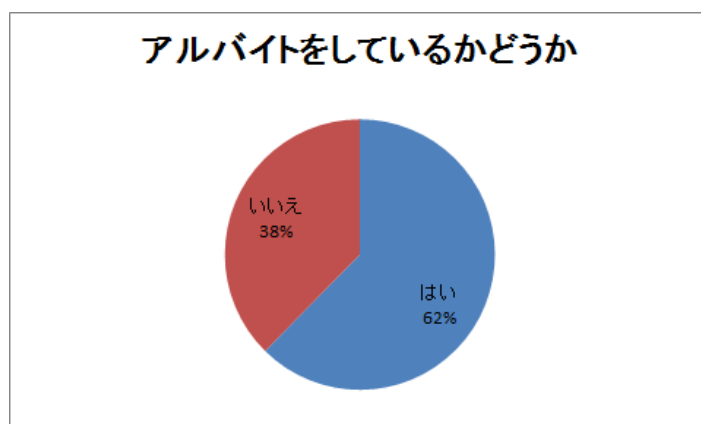


(回答数 33件)

(4) アルバイトについて

Q17-1,あなたはアルバイトをしていますか？

アルバイトをしているかについては、「はい」が63%、「いいえ」が38%だった。

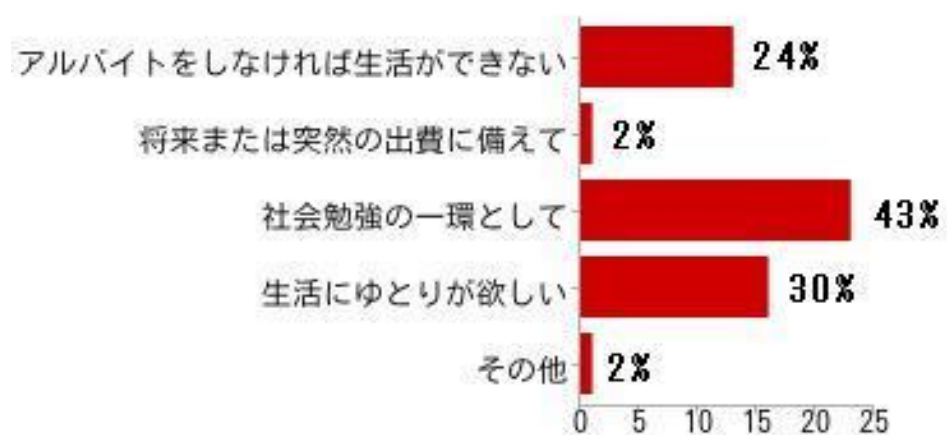


(回答数 57件)

(5) アルバイトをする理由

Q17-2,アルバイトをする理由について選んでください。(2つまで選択可)

アルバイトをする理由については、「社会勉強の一環として」が43%と最も多く、次いで「生活にゆとりが欲しい」が30%、「アルバイトをしなければ生活ができない」が24%、「将来または突然の出費に備えて」が2%の順になっている。

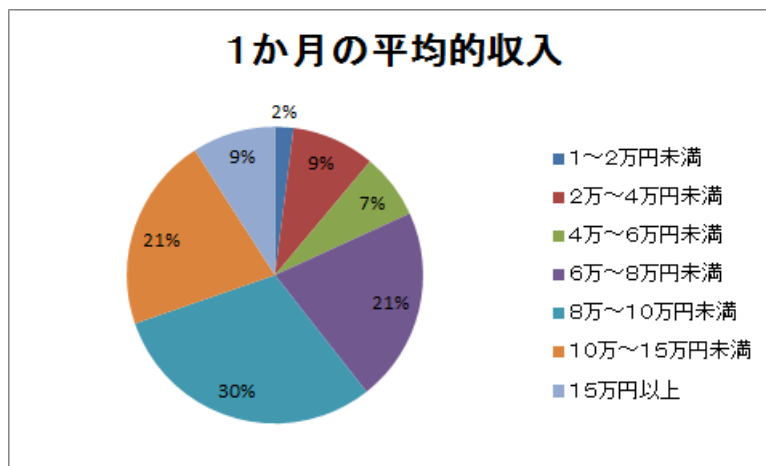


(回答数 54件)

(6) 1か月の平均的収入

Q18,現在の1ヶ月の平均的収入(アルバイト、仕送り、奨学金、その他全て含めて)についてどれに当てはまりますか？

現在の1ヶ月の平均的収入については、「80,000～100,000円未満」が30%と最も多く、次いで「60,000～80,000円未満」と「100,000～150,000円未満」が21%と続いている。

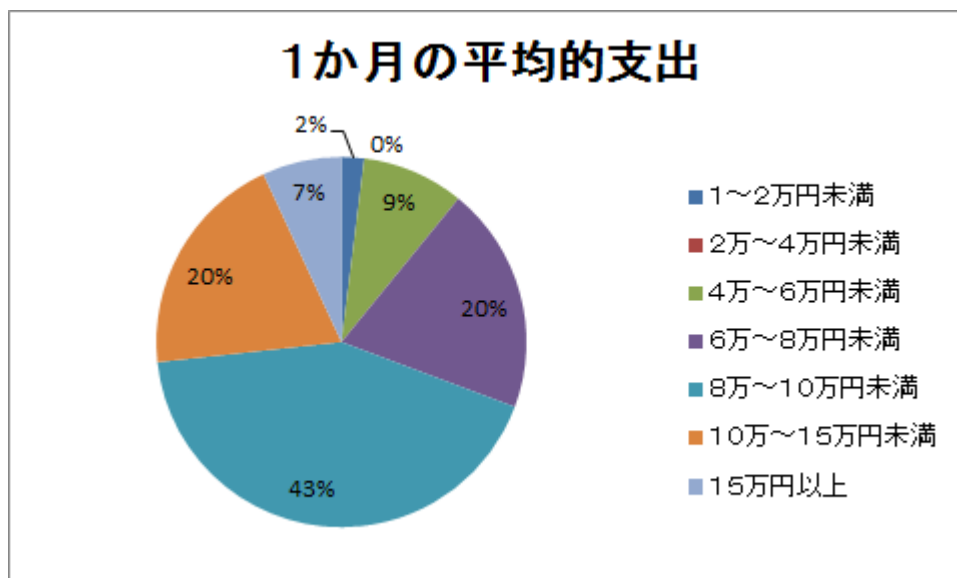


(回答数 57件)

(7) 1か月の平均的支出

Q19,現在の1ヶ月の平均的支出は(家賃、生活費、娯楽費など)についてどれに当てはまりますか？

「80,000～100,000円未満」が43%と最も多く、次いで「60,000～80,000円未満」と「100,000～150,000円未満」が20%と続いている。



(回答数 57件)

〈5 についての考察〉

この項目では留学生の日本での生活に関する質問を行った。

日本では短期留学という言葉をよく耳にするが、留学生の大半が 1 年以上は日本にいることに驚いた。またホームステイが一般的だと思っていたが 80%がアパートなど一人暮らしをしていることやアルバイトをしていることも意外だった。

収入、支出に関しては、全国の平均的収入、支出が 12 万円ほどだという統計から留学生はやや少なめだとわかる。

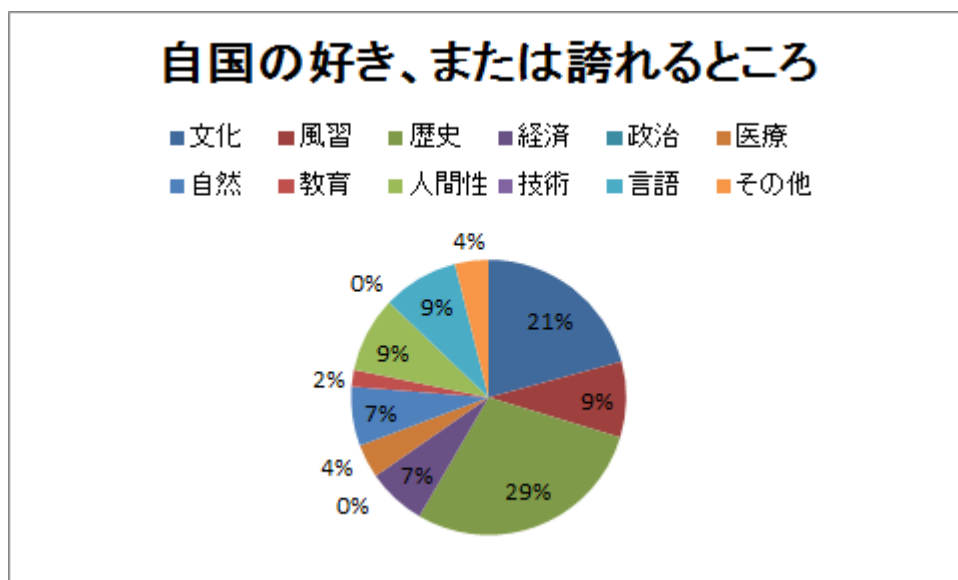
アルバイトをする理由として社会勉強の一環が半分近くなのは予想ができたが、それに対して生活ができない、生活のゆとりがほしいという回答者がいたことにおどろいた。留学生は国や親から金銭的支援があると思っていたが、それぞれアルバイトをしたお金で生活をしている人もいるのだと新たな発見があった。

6 自国について

(1) 自国の誇れるところ

Q20,あなたは自国のどんなところが好きまたは誇れると思いますか？(1つ選択)

自国の好きなおところまたは誇れるところについては、「歴史」が29%、「文化」が20%と多く、次いで「風習」と「人間性」が9%、「経済」と「自然」が7%の順になっている。



(回答数 57件)

Q21.なぜその分野において好きまたは誇れると感じるのですか？理由を教えてください。

＜自然＞自然が持つ美しさや、自然があることによって受ける恩恵を誇りに思っている。自然を大切にする国民性も伺われる。

＜文化＞文化に誇りを持っている人の多くは、それぞれの伝統文化に特に誇りを持っていて守っていきたいと思っている。また文化の多様性、自国の文化に対する世界的な注目に誇りを持っている人もみられた。

＜歴史＞中国の歴史はとても長く、そして深いことに誇りを持っている人が多く見られる。

古代から日中両国が交流しており、長い歴史のわりに波乱万丈で面白いと感じていることが理由にあげられる。

＜経済＞

現在中国の経済はどんどん発達しており、飛躍的に発展していることを誇りに思っているようだ。

＜人間性＞

暖かくて、正直なため心の交流がしやすく、人がいいことが誇りとしてあげられている。また、中国は日本よりもっと親切な国だという意見もある。

＜その他＞言語に対しては表現方法が多くあるなど、言語そのものに誇りを持っている。食事については幅広さ、美味しいなど魅力を感じている

医療に対しては健康保険の充実などによりあまりお金がかからないことに誇りを持っている。

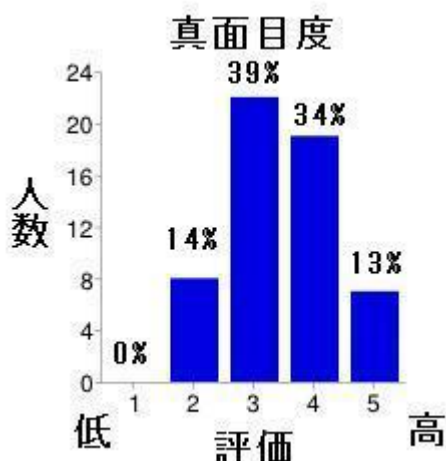
（２）性格について

Q22,あなたが思う自国人の性格を5段階で評価してください。

自国人の性格の５段階評価については以下の通りとなっている。

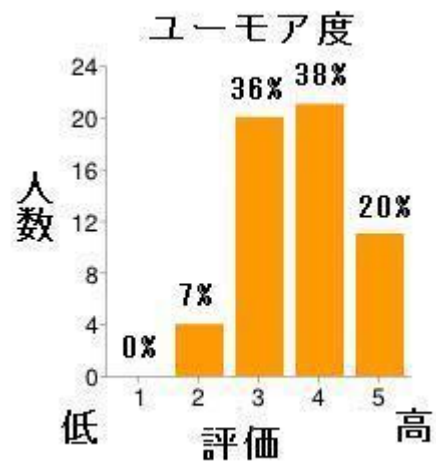
真面目度については、「３」が３９％、「４」が３４％となっている。

（回答数 ５７件）



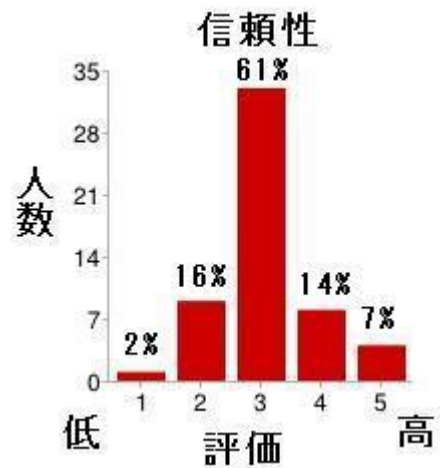
ユーモア度については、「4」が38%
「3」が36%、「5」が20%の順
となっている。

(回答数 57件)



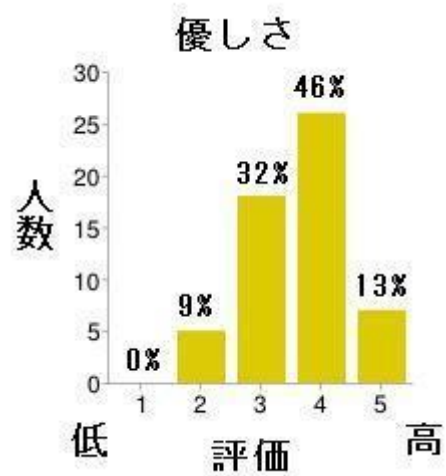
信頼性については、「3」が61%と突
出して多くなっている。

(回答数 57件)



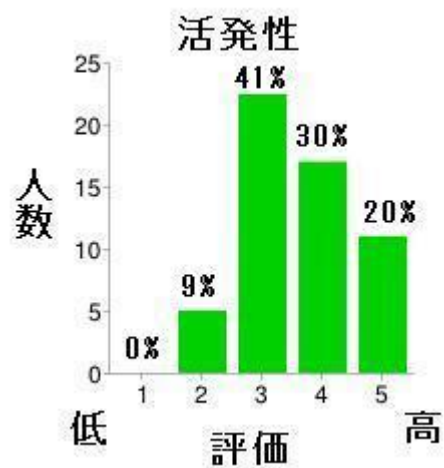
優しさについては、「4」が46%、「3」が3
2%となっている。

(回答数 57件)



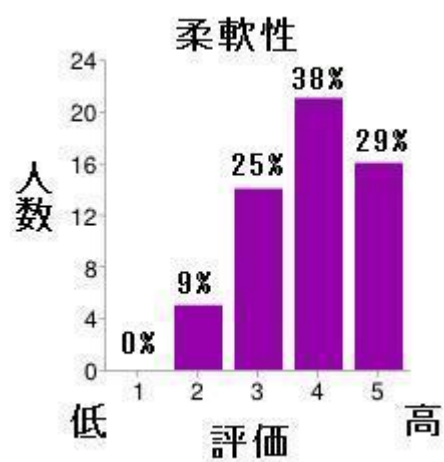
活発性については、「3」が41%、
「4」が30%、
「5」が20%の順となっている。

(回答数 57件)



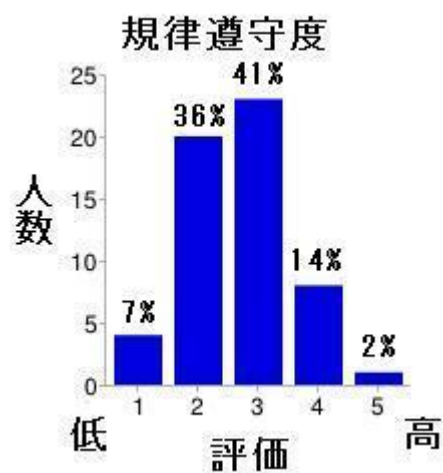
柔軟性については、「4」が38%、
「5」が29%、
「3」25%の順となっている。

(回答数 57件)



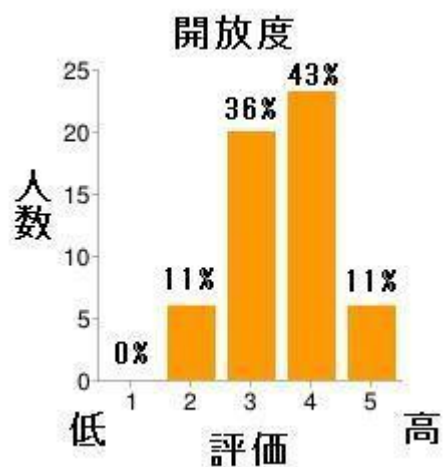
規律遵守度については、「3」が41%、「2」
36%となっている。

(回答数 57件)



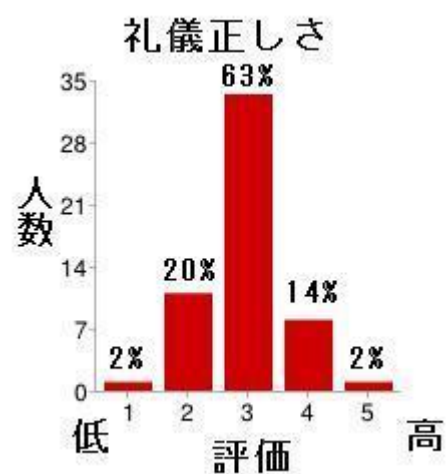
開放度については、「4」が43%、「3」が36%となっている。

(回答数 57件)



礼儀正しさについては、「3」が63%と突出して多くなっている。

(回答数 57件)



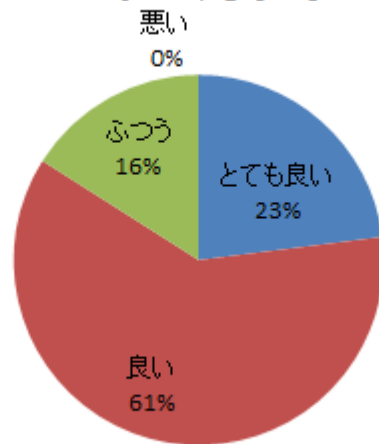
7 日本について

(1) 日本のイメージについて

Q23あなたの日本に対する今のイメージについてあてはまるものをひとつ選んでください。(1つ選択)

日本に対する今のイメージについては、「良い」61%と、「とても良い」23%が合計で8割以上を占めている。

現在の日本に対するイメージ



(回答数 57件)

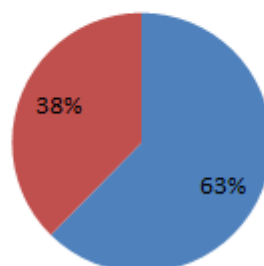
(2) 来日前と来日後のイメージの変化

Q24-1, 来日前と後であなたの日本に対するイメージに変化はありましたか？

来日前と後であなたの日本に対するイメージに変化があったかについては、「変化があった」が63%を占めている。

来日前後での日本に対するイメージの変化

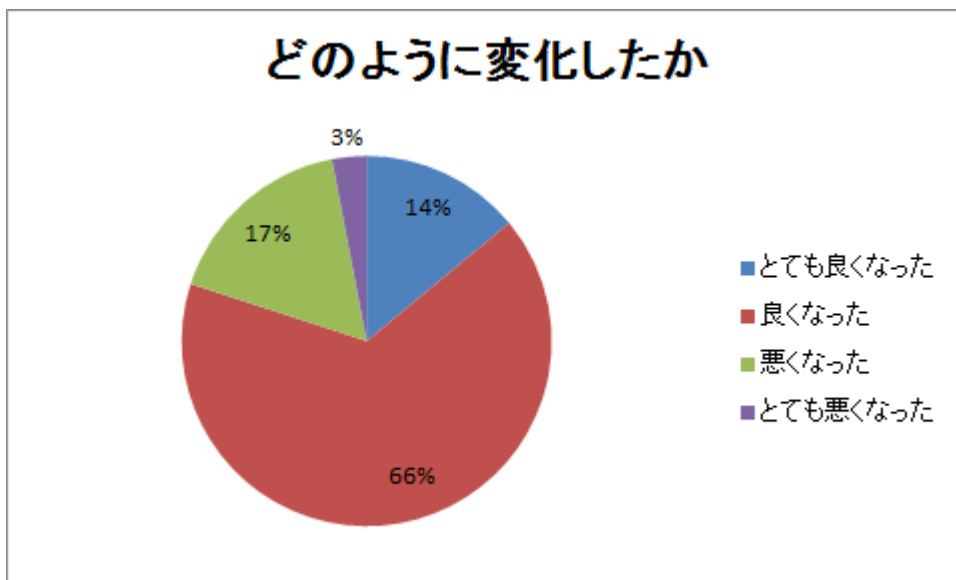
■ はい(変化があった) ■ いいえ(変化はなかった)



(回答数 57件)

Q24-2,どのように変わりましたか？一番近いものを選んでください。

Q24-1 で「変化があった」と答えた学生にそれはどのように変わったのかをきいたところ、「よくなった」が66%、「とてもよくなった」が14%と合わせて8割を超えたが、「悪くなった」が17%もあった。

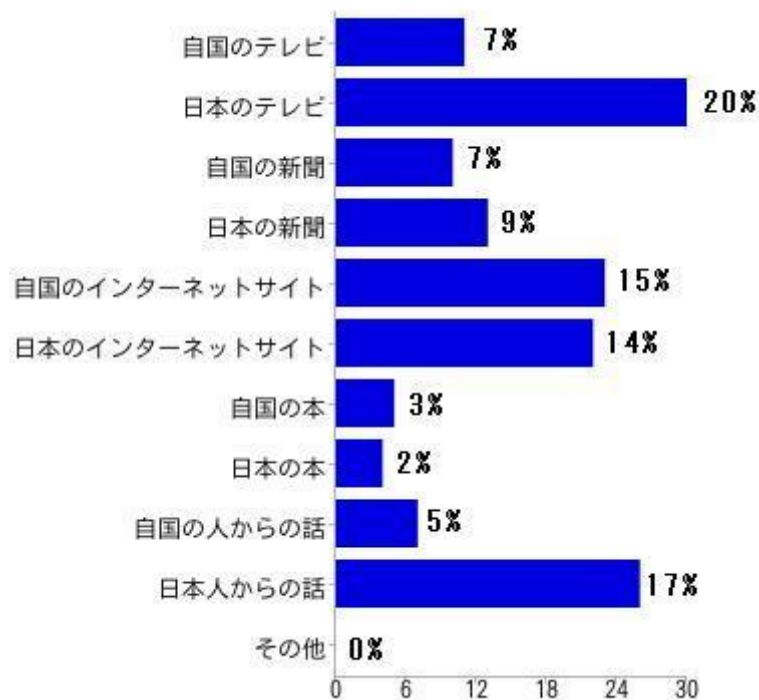


(回答数 35件)

(3) 情報の入手方法

Q25,日本に関する情報をあなたはいつもどうやって手に入れていますか？使う頻度の高いものを選んでください。(3つまで選択可)

日本に関する情報の入手手段については、「日本のテレビ」が20%と最も多く、「日本人からの話」が17%と近い割合で多くなっている。以下、「自国のインターネットサイト」15%と「日本のインターネットサイト」が14%と次いで多くなっている。



(回答数 151件)

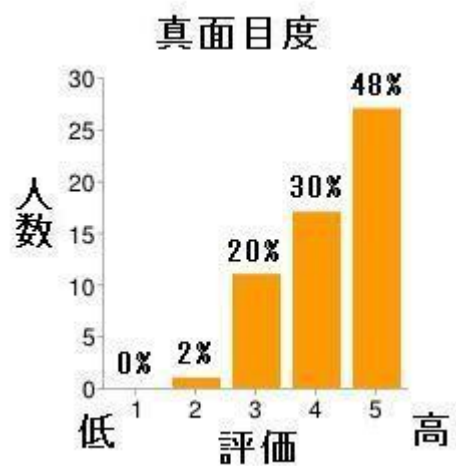
(4) 日本人の性格について

Q26,あなたが思う日本人の性格を5段階で評価してみてください。

日本人の性格の5段階評価については以下の通りとなっている。

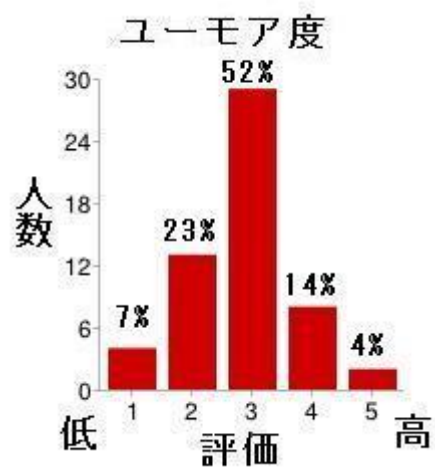
真面目度については「5」が48%と最も多く、次いで「4」が30%、「3」が20%となっている。

(回答数 57件)



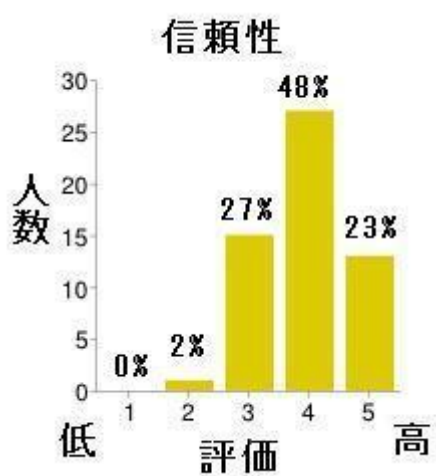
ユーモア度については、「3」が52%と過半数を占めている。

(回答数 57件)



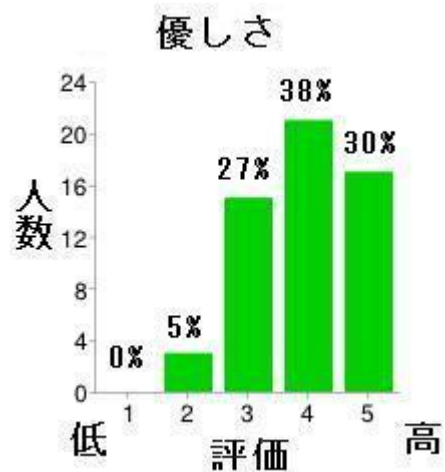
信頼性については、「4」が48%と最も多く、次いで「3」が27%、「5」が23%となっている。

(回答数 57件)



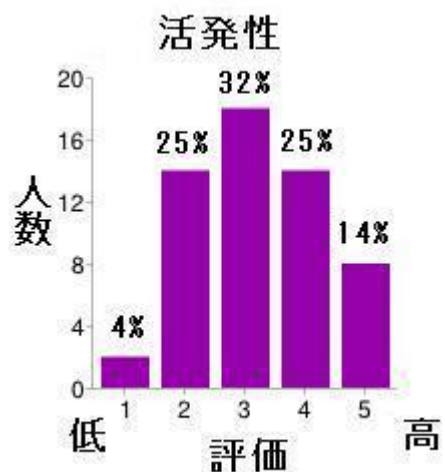
優しさについては、「4」が38%と最も多く、次いで「5」が30%、「3」が27%の順で多くなっている。

(回答数 57件)



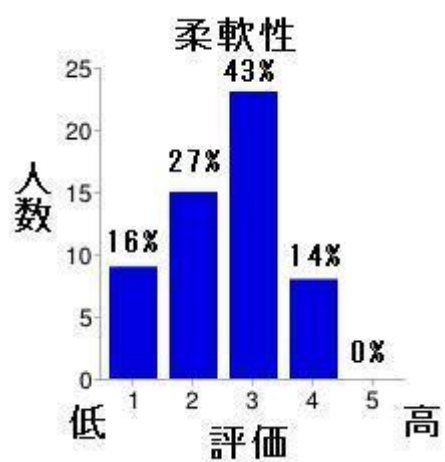
活発性については、「3」が32%と最も多く、次いで「2」と「4」が25%と同数であった。

(回答数 57件)



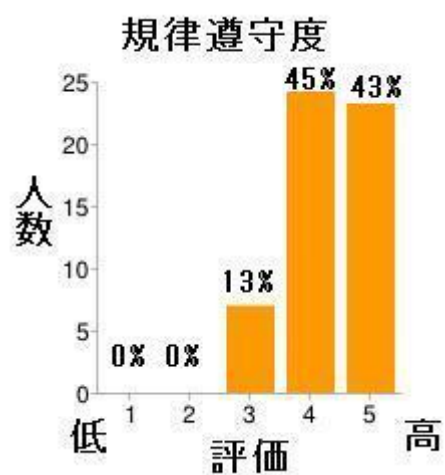
柔軟性については、「3」が43%と最も多く、次いで「2」が27%「1」が16%の順となっている。

(回答数 57件)



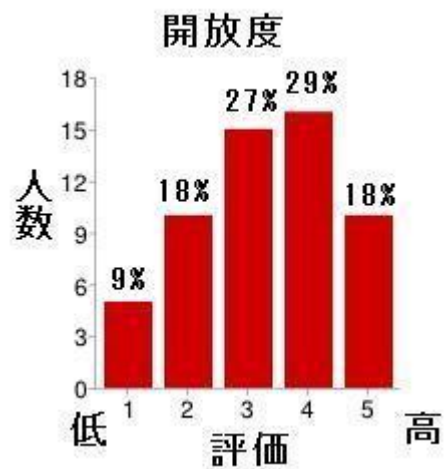
規律遵守度については、「4」が45%、「5」が43%と高い。

(回答数 57件)



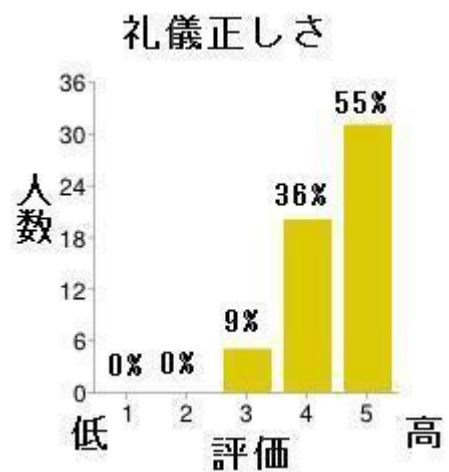
開放度については、「4」が29%、「3」が27%と高く、次いで「5」と「2」が18%の順となっている。

(回答数 57件)



礼儀正しさについては、「5」が55%と高く、「4」が36%となっている。

(回答数 57件)

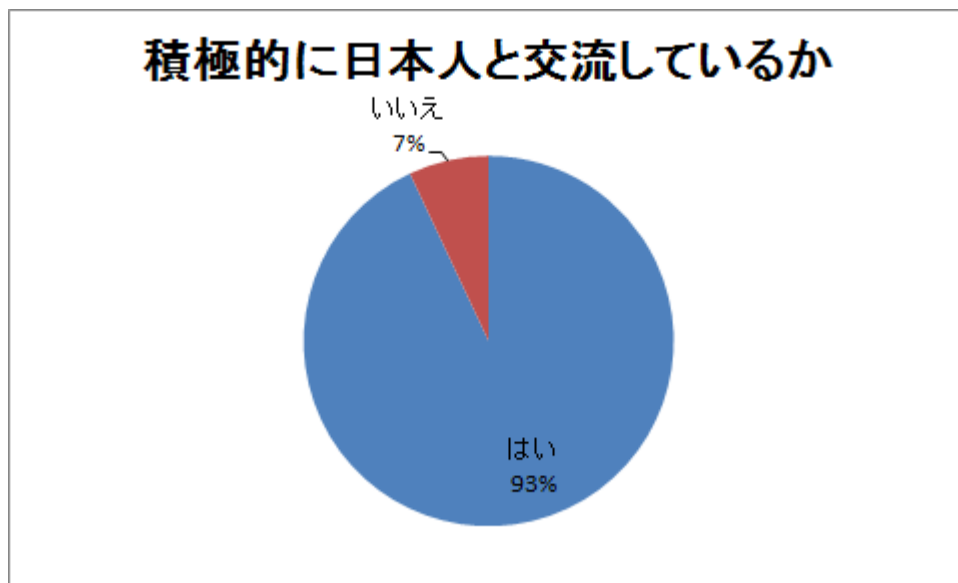


日本人の評価は、ユーモア度、活発性、柔軟性の項目では標準で、その他の項目ではおおむね高いと言える。

(5) 日本人との交流

Q27,あなたは積極的に日本人と交流することを心がけていますか？

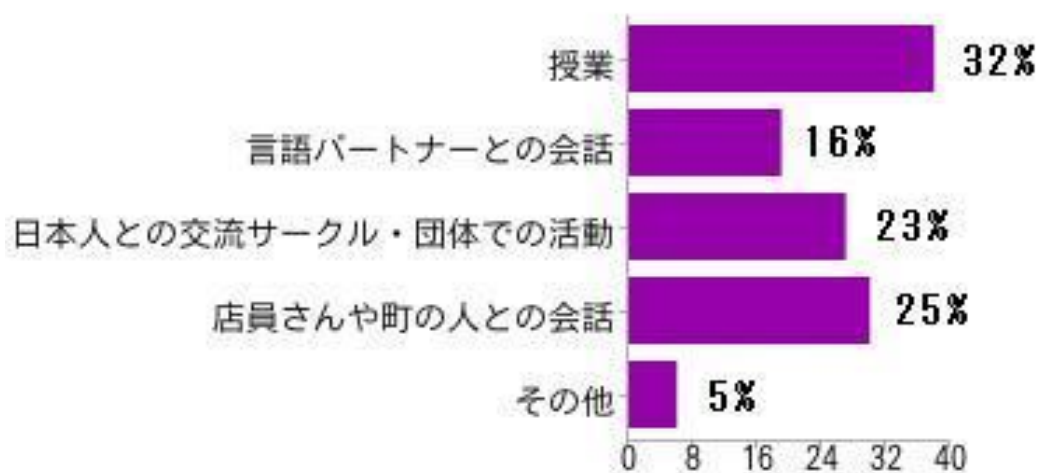
積極的に日本人と交流することを心がけているかについては、93%とほとんどの学生が「はい」と回答した。



(回答数 57件)

Q28,あなたがもつ日本人との交流の機会にはどのようなものがありますか？(あてはまるものすべて)

日本人との交流の機会については、「授業」が32%と多く、次いで「店員さんや町の人との会話」が25%、「日本人との交流サークル・団体での活動」が23%、「言語パートナーとの会話」が16%の順となっている



(回答数 120件)

Q29、あなたが日本に来てびっくりしたことはどんなことですか？（たとえば、電車内での通話禁止など）
（自由記述）

回答をもとにカテゴライズすると以下のようにまとめることができた。

<交通について>

- タクシーの運転手は高齢者ばかり
- 交通の便利さ
- 電車内の電話禁止
- 電車は時間通りに来ること（回答者3名）
- バスの乗り方（回答者2名）
- 道を渡るとき、車が止まってくれ、先に歩けること
- 電車のいろんなルール
- 朝6時の満員電車
- 自転車が危ない

<ビジネスについて>

- おもてなし接客態度
- 女性は結婚したら、仕事を辞めること
- デパートなどの閉店時間が早いこと
- サービス業の笑顔がどこでも通じること
- 週末銀行は営業しないこと

<文化について>

【食文化】

- ラーメンとご飯一緒に食べること
- 食べ物（辛いお菓子など）
- ズルズルと音をたててラーメンを食べて、鼻をすすること
- あまりにもアナログ的なシステム

<環境について>

- ごみ箱が少ない（回答者4名）
- 環境がきれい
- ごみの分類（回答者3名）

<ファッションについて>

- 女性のくつや服、男性の髪型
- 冬になっても、ワンピースを着る人が多い

<人間性について>

- 授業の時にみんなすごく静かであること
- 時間に厳しいこと
- 多くの人々はとても内気であること
- エレベーターに乗るとき、みんなが自覚的に歩く通路を開けてくれること
- 駅にいる人たちがロボットのようにであること
- お年寄り優しいが、若者は特定の友達以外には関心がないこと
- 変わった人を無視する雰囲気
- 人が優しい
- 人がとても親切であること

<マナーについて>

- 礼儀が正しくて、人々の距離が遠い

<トイレについて>

- トイレとお風呂が別れていること
- 男性トイレを掃除するおばさんが勝手に入ること
- トイレがきれい
- いつでもどこでもトイレにはトイレットペーパーがあること

<経済について>

- 物価がすごく高いこと（2）
- NHK の受信料の法律上の不完全な問題があること

<習慣について>

- スーツを着ている男性が自転車に乗ること
- 家に誰もいなくても窓が開いていること
- 列に並ぶこと
- 日本人は早起きすること
- エスカレーターに乗るとき、片側に立つこと
- ペットの飼い方

<言語について>

- 日本語ができなかったら暮らしにくいこと

Q30, あなたが思う日本の好きなところはどんなところですか？（観光名所でも可、具体的な日本文化・主習慣などでも可）（自由記述）
--

回答をもとにカテゴライズすると、以下のようにまとめることができた。

<環境について>

- 街がきれい（回答者2名）
- 環境が良い
- 水がきれい
- 水がきれい
- 静か

<生活環境について>

- 社会保障が良い
- 生活環境が良いし、貧富の差もそれほど大きくない

<治安について>

- 治安が良い
- 安全

<交通について>

- 交通が非常に便利（回答者2名）
- 交通環境

<自然について>

- 自然（回答者4名）
- 海（回答者2名）
- 山（回答者2名）
- 森

<文化について>

- 食文化
- 刺身がおいしい
- 和食
- アニメ
- アイドル
- テレビ
- 音楽
- ファッション
- 和服
- 祭り
- 伝統文化
- 性文化

<歴史について>

- 歴史があるところ（回答者2名）

<言語について>

- 日本語
- 関西弁

<習慣について>

- 知らない人とも挨拶ができる

<ショッピングについて>

- 日曜日に買い物が・電気製品の発達
- 買い物ができる

<ビジネスについて>

- サービスが良い

<人間性について>

- 人への思いやり
- 人情がある
- 人が親切である
- みんなとても優しい（回答者2名）
- 礼儀正しい（回答者2名）
- 日本人の勤勉さ
- 公平なところ
- 自分の国の伝統を大切に思うところ
- 日本人の性格

<場所>

- 京都
- 京都の神社、寺
- 京都の町並み
- 京都の鴨川
- 建仁寺
- 四条河原町
- 嵐山
- 伏見稲荷神社
- 京都など伝統のある町
- 東京
- 富士山（回答者 2 名）
- 飛騨高山
- 伊勢神宮
- 広島（回答者 3 名）
- 宮島（回答者 3 名）

IV 全体の考察

今回のアンケートの目的の一つとして、「京都への留学生を増やすためにどうしたらいいか」を探ることを目的としていたが、本アンケートにて大きく 2 つの側面「就職面」「生活面」から現状を読み取った。

【生活面において】

留学生にとって日本での「生活」は非常に重要であり、留学生が快適に京都で暮らせる環境づくりを考えることが留学生を増やすための大きなヒントとなるかもしれない。

① アルバイトの有無、アルバイトを行う理由について

その中でも、今回アンケートの中でアルバイトに関する質問を行い、見えてきた現状があった。

Q17-1 にてアルバイトの有無を聞いたが、回答者全体のうち、アルバイトをしている人が 62%いた。さらに、Q17-2 でその理由を聞いたが、結果は大きく二つに分けられた。

一つは、金銭的な理由によるものである。回答のうち、アルバイトをしなければ生活できないため、生活にゆとりがほしいための合計は 54%であり、半数を上回った。

これは、今回のアンケートで最も回答が多かったのが「中国出身者」(Q4 参照)であるが、中国では一か月の収入と支出の合計が日本のそれを大きく下回る（自身の留学経験より）にも関わらず、回答数が最も多かったのは「8 万～10 万未満」であることから、日本での生活は金銭的に苦しいのかもしれない。実際に、Q16-2 留学生が困ったことは何かについても、「物価が高く生活が苦しい」と回答した人が 34%と一番多かったことから読み取れる。

アルバイトを行うもう一つの理由は、「就職活動の準備もかねて社会体験をしたい」という回答で全体の 43%を占めた。留学生は日本に来て、職場の雰囲気を知りたいとの回答もあったので、留学生の社会経験を促進する点においては、アルバイトの環境を整える必要があるだろう。

② 日本人学生との交流について

また、Q16-2 留学生が困ったことは何か？という問いに対する回答で、「物価が高く生活が

苦しい」の次に多かったのは、「日本人の友人ができない」（33%）であった。
この原因のひとつとして考えられるのが、大学の授業が留学生のみのクラスで行われることである。実際にドイツ人留学生にインタビュー調査を実施した際に、このような回答が得られた。また、自身が留学をした際にも、同じように留学生クラスで授業を受けており、なかなか中国人の友人をつくることができず苦労した経験があるので、このようなドイツ人留学生の気持ちはよく分かる。

日本人学生と友達になるきっかけづくりとして、日本人学生と交流できるイベントを開催してみてもどうか。たとえば、Q30 日本の好きなところとして挙げられている、「和食」や「伝統文化」や「和服」などは京都独特のものを示している回答だったので、これらを利用して交流を行うイベントもいいかもしれない。

【就職面において】

ここでは今後、京都に住む上でもう一つ重要なファクターである「就職面」について現状を述べる。

①希望勤務地について

結果として、Q11にて日本で就職したいかどうかの質問を行ったが、その回答は61%であり、過半数を占めた。しかしながら、その内京都が希望勤務地であると答えた人は全体の33%であった。（大阪、東京の大都市は63%）

このことから、京都の地域企業の情報発信が課題であるように考えた。それは、私達日本人学生が就職活動を行っている中でも大手企業以外の中小企業、特に京都ローカル企業についての情報源が少ないと感じている。このような現状では、外国人ではなおさら京都の地元企業について把握できていないだろうと思う。

②留学生が希望する就職支援について

さらに、Q13.日本で就職活動をする際、どんな支援が必要であるかという質問を行ったが、留学生を積極的に採用している企業の紹介という回答が62%と最も多く、「情報提供」に対する要望が多くみられた。

他府県のある大手企業が留学生向けに実施したアンケート調査においても、就職活動において知りたい情報は何かという問いに対して、外国人採用をしている企業の情報が71.2%（1100人中783人）という答えが最も多かった。

これらのことから、留学生を採用している企業などの情報を留学生に向けて発信していく必要があると思われる。

V参加者の感想

【参加大学生の感想】

（同志社大学3年生 城塚 真衣）

実際に私も中国に留学して、多くの中国文化を吸収した。実際に体験することで、日本とのギャップを素で感じ、日本だけにある素晴らしい文化も理解できたし、それだけでなく日本に足りないものも客観視して評価できるようになった。

そんな経験をした私は、日本に帰ってきて、外国の文化を多くの人が実際に留学に行かなくても吸収できる方法はないか、日本の良さに気づく方法はないか、と考えていて、このプログラムを実施しました！

後半の作業は高校生と一緒に、日本との違いについて議論したり作業を行ったり、少しでも私たちの伝えなかったものを理解してくれていたらいいな、と思っている。

このアンケート実施によって、日本の新たな良さや、当たり前の文化を違った視点から見ることができ、非常に自分のためにもなった。

これからも自分でまだ理解していない部分を、多くの人と関わる中で発見していきたい。

（同志社大学 3 回生 藤井 亜季子）

今回のアンケート調査では、さまざまな国籍の留学生に回答していただくことができました。中でもダントツで多かったのは中国人留学生の皆さんでした。中国に留学経験があるとはいえ、まだまだ知らなかった日本と中国の違いなどを発見することができ、大変勉強になりました。また、新しく他の国籍の留学生の考えも知ることができ面白かったです。自身の視野もまたひとつ広げることができたのではないかと感じています。そして、国籍別である程度傾向が似かよるものあれば、個人差の大きいものもあり、当然のことですが、一人ひとり異なる考えや価値観を持っているということを改めて実感しました。これからも国籍を問わず、たくさんの人と交流し、たくさんの人の考えや価値観に触れていきたいと思います。

この留学生アンケートは、最初から最後まで困難がつきまとい、途中で投げ出したくなるのが正直何度もありました。こうして最後までやり遂げることができたのは、周りのみなさんの協力があったからです。アンケートに答えてくれて留学生の皆さん、サポートしてくださった西垣さんをはじめとするグローバルセンターのスタッフの方々、そして、一緒に進めてくれた城塚さん、佐古くん、日野さん、前田さん、本当にありがとうございました。

（同志社大学 1 回生 佐古 イドリサ泰和）

僕が今回、この留学生プロジェクトに参加して、改めて日本の良さを感じました。留学生の人たちは、日本のことが好きで来るか、あるいはそうでなくとも日本に来てから好きになってくれています。その日本のことを好きと言ってくれる留学生たちのためにも、これから日本にやってくる留学生たちが気持ちよく勉強し、日本を楽しむためにも、留学生のための制度やシステムの充実というのは意味があることだと僕は思いました。

【参加高校生の感想】

（久御山高校 3 年生 日野 千優）

このプログラムに参加したのは、自分自身の経験の一つとして何か得るものがあると思ったからです。また、新しい人との交流を持ち新しい刺激を受けられればいいなと思ったからです。アンケート結果を見て、留学生が抱く日本への印象を知ることができました。また、日本を客観視することからより日本の良さに気付くことができたと思います。Word の使い方やデータの分析の仕方など、これから始まる大学生活に役に立てばと思います。

（紫野高校 3 年生 前田 有紀）

この企画に参加し、大学生の方々のお話を聞いて大学でどんなことが必要か知ることができました。また留学生インタビューの結果をみて世界から、日本特に京都がどのように思われているか知ることができ、改めて京都を客観的に見て、良い面もわかりました。この企画を通して学んだことを大学生活に役立てていけたらいいなと思います。

以上